



2024年夏の対市交渉

老朽施設、危険個所対応を、空調の早期改善を 抜本的働き方改革・業務見直し、欠員対策を

枚方教組は7月12日(金)に夏の対市交渉を行い、市教委への要求書を提出するとともに、職場の実態や切実な声を届けて、市教委に対応を求めました。

総合教育部

老朽施設・設備の対応を、放置くぎなど危険個所への対応、 校区希望変更制の見直し、給食負担軽減、空調の改善を

前半の総合教育部での交渉では、分会から、グラウンドの放置くぎの業者による撤去、空調の早期改善、複合機の増設、内部系 PC の授業用タブレット・自宅仕事との連携の要望、樟葉北小への校区の希望変更制で校内体制組むのが難しくなっていることへの要望が出されました。

分会からの発言

- 空調が聞きにくい、古くて危機が悪い、早期に改善してほしい
- 複合機に印刷集中して、仕事に支障。職員室に増設を
- 校区の希望変更制で、決定が遅く校内体制、教員配置の対応がぎりぎり困っている。
- 自宅仕事と内部系 PC 連携できるように、非常勤に内部系 PC 担当してほしい
- 雨で運動場の土が流れる、整地の対応を。他府県で放置くぎのケガ、枚方でも対応を

市教委回答「空調は令和7年から更新予定」「複合機増設は全体の実態把握して検討」

- 空調は令和7年から1800室更新予定。700室は台風被害で更新済み。
更新後の空調の保守点検は、フィルター清掃はあるが、内部清掃は含まれていない。
未設置教室については、学校の要望を受けて計画に入れているところ
- 複合機については、全体の実態を把握して、検討したい
- 校区希望変更制、試行的なもので実際の困りごとなど相談いただきたい。
- 直営によるグラウンド改修を進めている。具体的な課題あれば相談いただきたい。

菅書記長から、放置くぎは何かあってからでは遅い、学校での点検では発見困難、業者による対応をしてほしい。空調内部清掃も、カビ問題などもある点から計画・契約に入れて今からでも対応を。施設整備計画この間国の指針も改訂、枚方も令和2年の計画、ぜひ計画見直しを、と求めました。

学校教育部

多忙過密な働き方の見直しを、評価基準・通知表所見の見直し、 漢字作文コンクール、合同音楽会の見直しを、部活動負担の抜本的軽減を

後半の学校教育部の交渉では、分会から深刻な欠員問題、講師の待遇改善、過密多忙化問題、業務の抜本的

な削減見直しなど、職場の切実な実態をあげて、対応を求めました。

分会からの発言

- 加配、専科の先生がある学校では、5・6年の担任は20時間、他の学年も24時間になっている例もある、全学的に加配や専科の配置を広げてほしい。
- 講師の先生、採用試験は有休。閉庁日にも出勤しないと、有休なくなる。講師確保・講師の働きやすいように対応を。
- チャレンジテストと枚方の評価基準が乖離してしまい、本来のテストや評価の在り方をゆがめている。評価基準の検討、チャレンジテストからの徹底をすべき。
- 持ち時間が多く、授業準備が学校で出来ない。5時退勤時間までに終わる業務量にしてほしい。通知表の所見を年度末だけ、2学期に始業式を9月に戻すなど検討してほしい。
- 漢字作文コンクール、合同音楽会3・4年スポーツテストなどやらなければならないものなのか、見直し・負担軽減検討してほしい。
- 中学校でもぜひダブルカウントを。ある学校で全学年42・43人クラスになるのを校内操作で1学年をクラス増にしたが教師に負担。支援学級の生徒、新しい教育の取り組みからもぜひ検討を。
- 部活動 休日活動、練習計画作成、試合登録、賞状印刷も顧問負担、責任も負担も大きすぎる。負担の軽減、指導員で対応できるようにしてほしい。
- 養護教諭の講師の先生が体調不良で4月に退職、学年と他校の養護教諭の応援で対応。大規模のさだ中でも複数が単数配置になり困難になっていると聞く。少数職種の先生に配慮や対応を。

市教委回答「承認研修は校長が認めるもの」「始業日、音楽会など様々な意見を勧案」

- ダブルカウントやっているのは枚方だけ、さらに中学校への拡大は難しい。欠員については全力で取り組んでいる。
- 承認研修は校長が認めるもの、適切に対応してもらっている。
- 活性化事業の校内研究は、各学からの申請もとに実施。報告書なども軽減はかっている。欠員の学校への対応は個別に適切に対応していく。
- 年度初め・学期の始業日は、子どもの状況、様々な状況を勧案している。音楽会は様々な意見を勧案している。
- (通知表所見は学校長判断にはなるが)、校長会からの動きで始まり、現在も検討しており一部学校で試行している状況。
- 養護教諭の欠員について現場からも声をもらっている、学校支援課としてもできるだけサポート。調整付けば学校に出向いて話を聞かせてもらっている。

菅書記長からは、「文科省も働き方改革で『出来ることはすぐやる』ことを強調、所見など進めてほしい。」「中学校ダブルカウント難しいというが、子どもにも必要なことぜひ検討を」「音楽会、漢字作文コンクール、国の言う3分類のどこに当てはまるのか?」「市教委全体としての働き方改革の方針、計画がないのではないのか。これでは進まないのではないのか」と市教委にさらに要求相示しました。

有馬委員長は最後に「市費講師の欠員9名は衝撃的な出来事。このままいればさらに負担増、学校去る人増える懸念も。働き方改革で大きく変わる時間もちにくい、行政とも一緒に考えられるところは取り組んでいきたい」と締めくくりました。

新保・学校教育部長から「現場の声を聴かせていただいた。日々努力されていることを実感した。いただいた意見を持ち帰り、できることについては取り組んでいきたい」とあいさつがありました。

教育委員会 働き方改革方針・推進計画は？

「学校に課している業務削減の数値目標を明確にした対応を」

文科省は令和31年「学校における働き方改革に関する取組の徹底について」(文部事務次官通知)で、「教育委員会として域内の学校における働き方改革に係る方針・計画等を示し、自ら学校現場に課している業務負担を見直すこと。」を強調して、以下の点について、教育委員会に取り組みを求めています。

- 教育委員会が課している業務の内容を精査した上で業務量の削減に関する数値目標(KPI)を決めるなど明確な業務改善目標を定め、
 - 業務改善の取組を促進し、フォローアップすることで、業務改善のPDCAサイクルを構築すること。
 - その際、数値目標を形式的に達成することを目的化させないよう、…どのような取組がどの程度の削減につながるか丁寧に確認をしながら取組を進めること。
- 令和31年「学校における働き方改革に関する取組の徹底について」(文部事務次官通知)より

5月に公表された教員確保の特別部会審議まとめでも、教育委員会に担当課横断的な対応を強調しています。しかし、枚方では教育委員会から働き方改革の全体的な方針や計画もいまだに現場に押し付けられていません。業務量の削減目標など検討されているかも見えないままです。

上記の通知から6年になります。働き方改革の根幹である委員会としての業務削減方針こそ求められます。

大教済 Summer Party

7月24日(水) 18:00

場所 リザ・ダイニング

枚方市岡本町4-25 枚方市駅北口すぐ
コース料理+フリードリンク

参加費 2000円(大教済加入者)

加入者以外5500円

先着25名 申し込みは 右下のQRコードから

まだ何人か申し込み可能です。お早めに申し込みを

大教済から、1学期頑張った先生たちに贈るキャンペーン。
1学期大変な中でやっとゆっくりできる時間。みんなでしゃべって、食べて、楽しみましょう。



全教(全日本教職員組合)の枚方教職員組合のニュースです

立ち止まって考える

「どうしてほどほどにできないんだ」 便利さと危険の間で悲鳴が聞こえる

天声人語(2024.6.22.)より

朝日新聞の天声人語は冒頭で、近未来を描いた水沢悦子さんの『ヤコとポコ』の漫画を紹介。その漫画では、「人間とロボットが共存するその平和な世界に、スマホは存在しない。通信機器は固定電話とファックスだけで、高速道路の最高速度は40Kmだ。子どもたちは輪投げや射的で遊ぶ。」不思議な世界が展開されている。

しかしそれが、「技術科発展の果てに悲劇が起き、革命を経て、突き進むことをやめた人々は生活のペースを落とす」としたことを紹介。

「いつか現実でも、こんな揺り戻しがあるのではないかと。スマホを手放せない毎日に、そんな不安がよぎった。高速通信に支えられ、AIが急速に進歩していきつく先で、人間が幸せになれるとは思えない。」と現実への懸念に。

アンデシュ・ハンセン著『スマホ脳』で、iPhoneの開発者が強い依存性について漏らした公開の言葉「ひや汗をびっしょりかいて目を覚ますんだ。僕たちはいったい何をつくってしまったんだろうって」の言葉にも触れ、「またたくさん死者が出る。どうしてほどほどにできないんだ」と、漫画に出てくる、超高性能ロボットの製造を知った学者のつばやきをあげています。

AI、ICTテクノロジー、効率的で短期的成果を最大限にあげるビジネス手法が学校にも広がり、個別の分野での効果が強調されるのが当たり前になった学校。

企業のマネジメントでも個別最適(部分最適)だけに偏れば全体最適を損なうことは大前提といわれます。

AIの急速な進化で、企業採用では履歴書をもとにSNSの情報を駆使して、企業が求める(好ましい)とする人物を即座に判別、説明会の申し込みさえ自動でシャットアウトされる。

企業採用以外の社会全体でも、優位に立つものの視点で集めたデータと、AIなどのアルゴリズムで自動的に人間が選別されるような、バーチャル・スラムともいわれる社会がすでに広がりつつあります。

教育者として、AI、ICTテクノロジーの活用や光の部分ばかりに目を奪われることなく、深い関心と確かな視点が求められるのではないのでしょうか。

冒頭の天声人語は最後にこの言葉で締めくくられています。

「便利さと危険の間で悲鳴が聞こえる。」

ウクライナ・ガザ、変えられていく平和憲法 戦争と平和・激変する世界の中で学校・平和教育に何ができるのか 戦争と平和、平和教育を考える交流会

7月30日(火) 18:00 枚方教組組合事務所



枚方教組に加入して学校や働き方を変えていきましょう